

梅雨が明けぬ間に 7 月を迎え、連日蒸し暑い日が続いていますが、子どもたちはそんな蒸し暑さもどこ吹く風と、園庭に出ると、自分の思いの趣くままに一人ひとり好きな遊びに取り組んでいます。梅雨の晴れ間などに園庭の至る所にできた水たまりは、子どもたちの泥んこ遊びの絶好の場所になっており、スコップやバケツを片手に泥んこ遊びを思う存分楽しんでいます。

子どもの遊びで大切なことは、子ども一人ひとりの遊びに自由さがあるかどうかではないでしょうか。集団遊び、とりわけ大きな集団煮なればなるほど一斉遊びを子どもたちに求めざるを得ないのも現実であることは否定できませんが、しかし、できる限り子ども一人ひとりの個性や特性を大切にしながら、遊びや活動に取り組みたいものです。

さていよいよ 6 月末から夏期特有の子どもたちの大好きな遊びの一つ、プール遊びがはじまりました。コロナ禍の時であり、三蜜が懸念されるころですが、産業医の「プールの塩素濃度の管理を適正にしていれば、」「安全」だとの指導を受け、塩素濃度の管理を昨年と同様、適正に行い今年も思う存分、プール遊びに取り組んでゆきたいと思っています。プール遊びを充分楽しんで心身共にたくましく成長した子どもたちを想像しながら、これからの園生活に取り組んで行きたいと思っています。